

第3回 ブリッジ研究会

第3回

2018.05.13 血液がん

① 血液がんの基礎知識



宮田 泰彦 みやた やすひこ
国立病院機構 名古屋医療センター

- ・血液内科医長
- ・臨床研究センター 血液・腫瘍研究部 病因・診断研究室長
臨床研究事業部 シーズ探索企画室長

【略歴】 1995年 3月 名古屋大学医学部 卒業
2003年 3月 名古屋大学大学院医学課程 修了
2003年10月 MEMリアルソーシング 癌センター リサーチエロ
2007年 4月 岐阜社会保険病院
2007年10月 名古屋大学医学部附属病院
2010年 4月 独立行政法人国立病院機構 名古屋医療センター

【メッセージ】

今回は「血液のがん」のうち急性白血病を中心にお話しします。急性白血病では、働き盛りの方がある日突然診断されてそのまま入院、そして半年以上の入院での治療が必要となるため、就労環境だけでなく生活そのものが大きく変わってしまいます。また、化学療法や造血幹細胞移植によるGVHDなどの副作用や高い再発率のため、治療後も長期にわたり身体的及び精神的な影響が残ります。治療後のQOL向上には就労環境を含めた社会的な満足度が重要であり、医療者だけでは解決できない就労問題について情報交換や議論したいと思えます。

② 血液がん体験者の就労での困りごとを知る

③ グループディスカッション&全体共有

ブリッジ 第3回研究会

血液がんとともに働く

2018年 5月13日(日) 13:30~16:30
ウイंकあいち1307会議室

昨年2月に厚生労働省より「事業場における治療と職業生活の両立支援のための方（ドライン）」が発表されました。今まで医療の側で議論されることの多かった「がんと就労」の問題は、実際に労働の現場でどのように治療と共有する労働者を受け入れるのかを検討するフェーズに移ってきたと言えます。つまり今こそ医療従事者と企業関係者が垣根を越えて情報や問題を共有し、多様性に富む労働環境を構築する一歩が求められているのです。

一般社団法人 仕事と治療の両立支援ネット-ブリッジでは、各領域をつなぐ場を設け、毎回1テーマで専門の立場からのレクチャーと会場のディスカッションで構成する研究会を開催しています。3回目のテーマは血液がんです。成長期で発症することも多く、その後の学業や就職に大きく影響することもあります。その分、関わる人も多岐にわたることでしょう。さまざまな立場からの発信の場が活性化し、議論が深まり、具体的なある方策を共に見出していくコミュニティとして発展することを願っています。

- 対象 医療関係者・企業関係者・両立支援関係者
- 料金 ブリッジ会員：無料 非会員：2,000円
※当日の入会も可能です
- 定員 36名
- 申込 <http://kokucheese.com/event/index/509073/>
※ブリッジからもリンク貼ります [仕事 治療 ブリッジ](#)
- 主催 一般社団法人 仕事と治療の両立支援ネット-ブリッジ
- 後援 愛知県、名古屋市、名古屋市医師会、
(株)労働者健康安全機構 愛知産業保健総合支援センター

医療×労働＝職場の多様性の構築